

県立学校施設整備事業

高校教育課・高校再編推進室・特別支援教育課

1 事業目的

高校再編校と老朽化する特別支援学校について、これからの学びに相応しい「学習空間デザイン」や「ZEB化」の視点を大切にした学校整備を行う。

小諸新校 (小諸義塾高校(仮称))	■統合内容 小諸商業高校と小諸高校を統合 → 小諸商業高校の校地を活用 ■新たな学びのイメージ 両校が築いてきたこれまでの学びを通し、「地域を舞台に多様性を重視しグローバルな視点で未来を創造する3科融合校」を構想
伊那新校	■統合内容 伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校を統合 → 伊那北高校の校地を活用 ■新たな学びのイメージ 地域と大学、研究機関等との協働した探究を核とし、個別最適な学びを実現する、「自らの可能性を切り拓き、夢の実現に果敢に挑戦する高校」を構想
赤穂総合学科新校	■整備概要 赤穂高校を学科転換（普通科・商業科 → 総合学科） ■新たな学びのイメージ 幅広い系列の設定により多様な個性が伸長し、地域との連携による実践的な学びにより、国際社会と未来を見据えた人材が育つ「地域とともに未来をひらく学びの拠点」を構想
須坂新校	■統合内容 須坂東高校と須坂創成高校を統合 → 須坂創成高校の校地を活用 ■新たな学びのイメージ 地域をフィールドとした探究を学びの中心に据え、「実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校」を構想
松本養護学校	■整備概要 老朽化及び狭隘化を解消するため一部改築、一部改修 ■新たな学び実現のための整備例 地域の方との日常的な交流や作業学習等のさらなる充実につながる地域交流スペース、児童生徒の障がい特性や状況に応じた多様な室（クールダウン室・個別学習室等）
若槻養護学校	■整備概要 老朽化及び狭隘化を解消するため全面改築 ■新たな学び実現のための整備例 児童生徒が障がいの状態に応じて居場所や学び方を選択できる小空間（クールダウン室）など多様な居場所、作品展示や交流を通して社会とつながる場としての「地域交流ギャラリー」

2 事業内容・スケジュール案

令和4年度から実施しているNSDプロジェクト※の取組を踏まえ次のとおり実施する。

※NSD(長野スクールデザイン)プロジェクトの特徴

- ・学校の設計・デザインと、これからの学びを一体的に検討して、学校を構成する空間(学習・生活・執務・共創の4空間)機能を高めたり、ZEB化等を推進したりするもの。
- ・施設整備基本計画の検討段階から、設計者や保護者など学校関係者も参画することで、最適な学校づくりに向けた丁寧な検討を行い、新しい学校づくりへの理解を醸成。

【高等学校新校】

- ・小諸新校 新棟・大体育館等建設工事、既存校舎改修工事、外構工事
- ・伊那新校 小体育館等解体工事、仮設校舎建設
- ・赤穂総合学科新校 実施設計
- ・須坂新校 実施設計

●：開校時期等

学校名	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
小諸新校	基本計画	基本設計・実施設計			開校				
伊那新校	基本計画	基本設計・実施設計					開校		
赤穂総合学科新校		基本計画	基本設計・実施設計					開校	
須坂新校		基本計画	基本設計・実施設計					開校	

【特別支援学校】

- ・松本養護学校について、既存校舎の解体工事を引き続き実施するとともに、体育館、寄宿舎、プールの新築工事に着手する。
- ・若槻養護学校について、新校舎に係る実施設計や仮校舎の工事を引き続き実施するとともに、既存校舎の解体工事に着手する。

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
松本養護学校	基本計画	基本・実施設計 測量等各種調査	新寄宿舎等工事(解体、新築)			新校舎等工事(解体、新築)		●
若槻養護学校		基本・実施設計 測量等各種調査	仮校舎工事	仮設対応			仮設撤去	●

●：新築棟利用開始予定時期

3 令和7年度予算額

64億5,178万円

(県立高校 47億4,981万1千円、特別支援学校 17億196万9千円)